

## ハタ類の漁獲状況について

近年、漁業者や遊漁者から伊豆半島各所でハタ類が増えているという話を聞きます。下田市船主組合では、市場に小型のアカハタが水揚げされるようになったことを受けて、小型魚保護のため全長 25cm 以下は水揚げしないという自主規制に取り組んでいます。そこでハタ類の水揚げ状況や漁獲サイズについて調査しましたので報告します。

下田市場に水揚げされる主なハタ類（クエ、マハタ、キジハタ、アカハタ、オオモンハタ）の水揚げ量の推移を図1に示します。魚種別に水揚げ量を見ると、平成元年～平成17年まではクエとアカハタの2種が水揚げ量の大半を占めていましたが、平成18年以降になるとクエの水揚げ量が減少してアカハタの割合が高くなり、平成23年以降は、アカハタの割合は平均83%とハタ類の水揚げ量の大半を占めるようになりました。

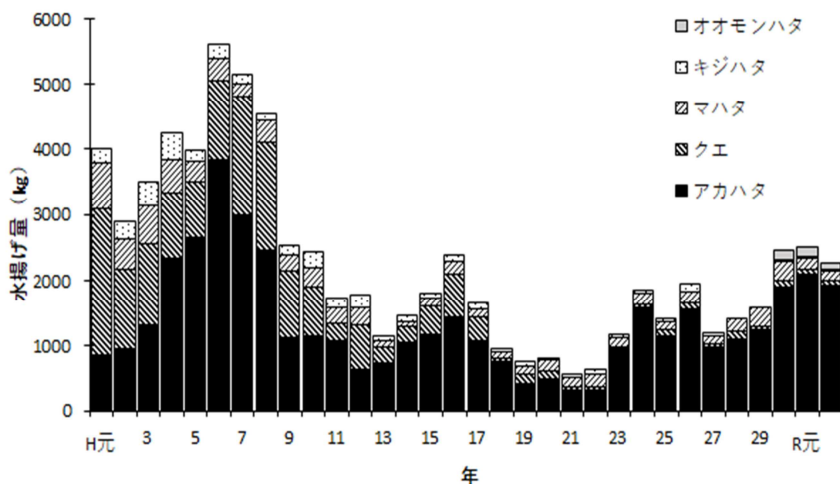


図1 下田市場におけるハタ類の水揚げ量の推移

下田市場にハタ類の中で最も多く水揚げされているアカハタの月別水揚げ量を図2に示します。アカハタは周年水揚げされますが、1～3月は水揚げ量が少なく、4月から水揚げ量が増加し始め11月にピークになり12月から2月にかけて減少する傾向が見られます。また、平成28年～令和2年の月別水揚げ量に着目すると11、12月の水揚げ量が平成元年～平成27年に比べ約100 kg増えていることがわかりました。

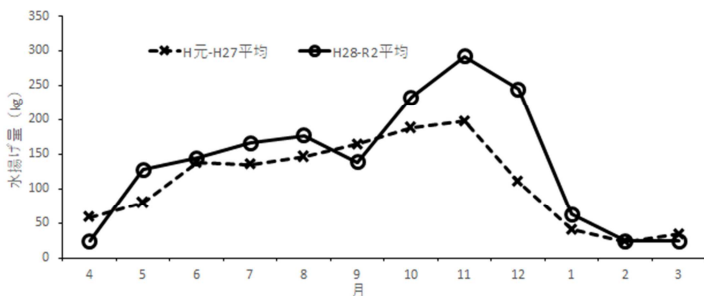


図2 下田市場におけるアカハタの月別水揚げ量

下田市場におけるアカハタの体長組成を図3に示します。水揚げ量が減少していた平成9年と平成12年では30cm以下の割合が約30%と低く、水揚げ量が多かった平成8年と令和3年では約50%と高くなっていました。また、令和3年では、下田市船主組合の体長制限サイズである25cm以下の割合が10%と高いことがわかりました。

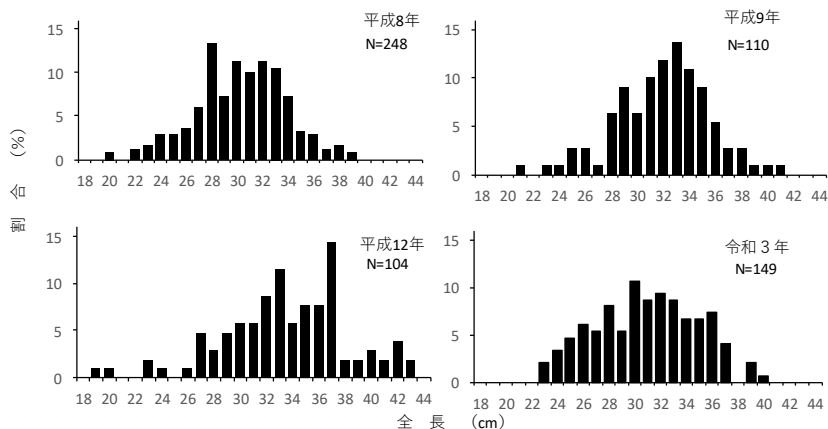


図3 下田市場に水揚げされるアカハタの体長組成

以上から、下田市場においてアカハタの水揚げ量が近年増加傾向にあり、特に11月から12月の水揚げ量が増えていることが分かりました。増加傾向の要因として、冬も浅瀬にいるようになったため釣りやすくなった、イサキなど他漁獲対象種が安価なため比較的高価なハタ類を狙って釣るようになったという話も聞きます。必ずしも資源の増加により水揚げ量が増加したとは言えませんが、今後も持続的に資源が活用できるよう漁業者による自主的な管理を期待します。

(橋詰悠斗)